



新病棟建設状況について

病院経営企画室

本院再整備事業の一環であります新病棟建設工事の進捗状況について、皆様にお知らせ致します。

前回のお知らせの際は、地上4階部分まで建物が立ち上ったことをお伝えしました。その後、建設工事は順調に進んでおり、9月上旬には7階部分の床作成、10月より屋上部分の工事に取り掛かることができ、建物自体は、年内に上棟を迎える運びとなりました。

並行して建物内の工事も進行しております。新病棟の特徴の1つに手術部門の機能強化が挙げられ、手術室の増室・拡張、高機能手術室の整備を行います。既に11月より内装工事に着手しています。また、12月より災害に強い病院機能を実現する「屋上ヘリポート」の設置工事が始まるなど、来年6月末の竣工に向け着々と工事が行われる予定です。



病院南側から撮影

現在は青いシートで覆われている新病棟ですが、来年2月より外部足場が撤去されますので、近いうちに新病棟の外観をご確認いただけるものと思います。

新病棟完成までの間、工事騒音等、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、今後ともご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

新病棟の特徴

- ◆免震構造を採用して、地震・災害に強い建物にします
- ◆個室病床や医師との面談室を増室して、患者さんのプライバシーに配慮した施設にします
- ◆個室トイレの増設や廊下幅の拡張を行って、患者さんの療養環境を改善します
- ◆手術室を拡張のうえ、MRI手術室などを設置して、高度医療ならびに先進医療を提供できる施設にします
- ◆屋上にヘリポートを設置して救急時・災害時に貢献できる施設にします



病棟南側上空から撮影
(平成 26 年 10 月 30 日)

重度心身障害者医療費の助成方法が変わりました

医事課

重度心身障害者医療費助成は11月1日から、医療機関等がかかった医療費を自己負担していただき、約3か月後に市町村へ登録した登録口座に、自動的に振り込まれる方法に変わりました。

医療機関の窓口で、黄色い重度医療の受給者証を提示して、受診をしていただければ、市町村から自動的に支払った医療費が還付されます。市町村へ還付の手続きは必要ありません。

ただし、受診の際に、窓口で黄色い重度医療の受給者証を提示されなかった場合、または、医療費が診療した月の翌月末までに病院に支払われなかった場合は、自動還付の対象外となります。その際は、印鑑と領収書を持参し、市町村の窓口へ償還払いの申請をしてください。

ご不明なことがございましたら、外来受付7番カウンター(医療福祉相談窓口)にお越しください。

平成27年「緩和ケア教室」のお知らせ

緩和ケアチーム

医療用麻薬の使い方 (薬剤師が説明)

- 1月 5日(月)
- 2月 2日(月)
- 3月 2日(月)
- 4月 6日(月)
- 5月 11日(月)
- 6月 1日(月)
- 7月 6日(月)
- 8月 3日(月)
- 9月 7日(月)
- 10月 5日(月)
- 11月 2日(月)
- 12月 7日(月)

緩和ケア全般について (医師と看護師が説明)

- 1月 19日(月)
- 2月 16日(月)
- 3月 16日(月)
- 4月 20日(月)
- 5月 25日(月)
- 6月 15日(月)
- 7月 27日(月)
- 8月 17日(月)
- 9月 28日(月)
- 10月 19日(月)
- 11月 16日(月)
- 12月 21日(月)

山梨大学医学部附属病院 緩和ケアチーム

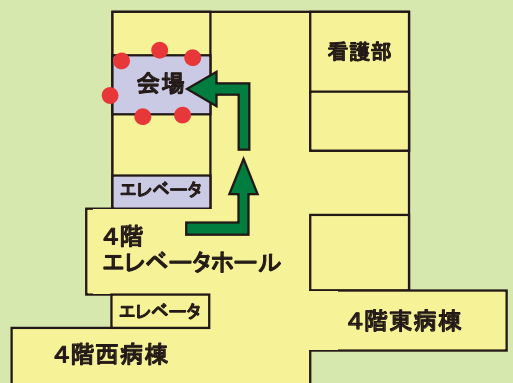
飯嶋 哲也 (麻酔科医師)
熊倉 康友 (麻酔科医師)
中島 絵美 (麻酔科医師)
石黒 浩毅 (精神科医師)
牛田 弘美 (緩和ケア認定看護師)
大芝 まゆみ (がん化学療法看護認定看護師)
鈴木 和香子 (薬剤師)

連絡先: 055-273-1111 (代表)
(緩和ケアチーム専用 PHS: 4338)

緩和ケアチームでは、毎月2回緩和ケア教室を開催しています。月の前半は医療用麻薬がとても役に立つ安全なお薬であることを薬剤師がわかりやすくお伝えします。

月の後半は「緩和ケア」全般についての理解を深めていただく内容です。どちらも13時30分から1時間程度のお話です。参加無料で、予約の必要はありませんので、患者さんやご家族、地域の住民の方など、多くの方のご参加をお待ちしております。お気軽にお越しください。

【開催場所】 病院4階カンファレンスルーム



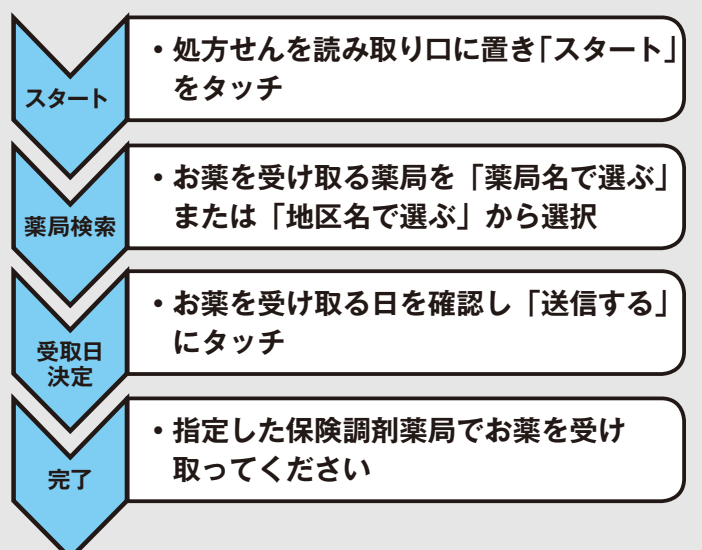
院外処方せんFAX送信サービスについて

医事課

FAX 操作手順

外来玄関ホールにあります院外処方せんFAXコーナーでのFAX送信サービスにつきまして、9月から方法が変更になりました。従来は、担当者に院外処方せんを渡し、お薬を受け取る保険調剤薬局にFAX送信していましたが、今後は患者さんご自身で院外処方せんを送信していただくことになりました。

送信手順は右図のとおりです。分からないことがございましたら、ご説明しますので、職員にお尋ねください。



科長就任あいさつ



本年10月に糖尿病・内分泌内科、腎臓内科科長を拝命しました北村健一郎と申します。当科は、糖尿病・内分泌疾患、腎臓病・高血圧疾患、リウマチ・膠原病と幅広い領域の疾患を対象として診療にあたっております。

現代社会における食生活の欧米化と高齢化を背景として、生活習慣病を抱える患者さんが著明に増加しております。その結果、成人人口の4人に1人が糖尿病またはその予備軍、同じく8人に1人が慢性腎臓病に罹患しているといわれております。糖尿病や腎臓病の患者さんは、進行すると脳卒中や心臓

糖尿病・内分泌内科、腎臓内科 北村 健一郎

病、人工透析、失明などに至るのみならず、死亡の危険性も極めて高くなることが明らかとなっております。近年、糖尿病や腎臓病に対する新しい治療薬や治療法が多く開発されておりますが、これらの病気に対しては何といっても食生活を含めた生活習慣の改善による予防と定期的な健康診断の受診による病気の早期発見が重要です。

当科では、「糖尿病や腎臓病にならない」、「たとえなっても進ませない」を合言葉に、かかりつけ医の先生方と私たち専門医の連携に力を入れながら、最新の治療法を提供して地域の皆様のために全力を尽くす所存でございます。今後とも皆様方の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

気になる感染症の話

感染制御室医師 井上 修

感染拡大が心配されるエボラ出血熱について解説いたします。

やさしく
教えて!
第13回

エボラ出血熱は約40年前にアフリカ大陸で初めて発生が報告されたウイルス感染症です。中央アフリカを流れるエボラ川の近くで発生したため、この名前が付けられました。エボラ出血熱の特徴は、患者の血液や体液を介してヒトからヒトへ感染が広がること、そして致死率が高いことです。約90%の患者に高熱が出ますが、出血は約20%の患者で認められるに過ぎず、エボラウイルス病と称されることもあります。世界保健機構（WHO）によると、現在流行が報じられている西アフリカには伝統的な宗教儀式として死者に直接接触する文化があり、流行の一因になっているようです。また現地では水道設備や医薬品が乏しく、十分な医療を提供できないことも高い致死率の一因とされています。

今後、日本国内でも流行地からの帰国者や渡航者を中心にエボラ出血熱の患者が発見される可能性があります。しかし文化的な違いや医療環境の充実もあり日本国内でこの病気が蔓延する可能性は極めて低いと考えます。さらに国産の新しい抗インフルエンザ薬がエボラ出血熱にも効く可能性があることや集中治療によりエボラ出血熱の重症患者が回復した事例などが相次いで報告されています。このようにエボラ出血熱を取り巻く状況は暗い話ばかりではありません。

流行地から帰国・入国後1か月以内に体調を崩した場合は一般医療機関を受診せず、早く適切な医療が受けられるよう、まずは自宅から最寄りの保健所へ電話で相談をしてください。また、万が一エボラ出血熱が疑われる方が直接受診された場合でも、当院では一般の患者様へ感染が拡大しないよう対策を講じておりますのでご安心ください。

手洗いやうがいをすることで感染症にかかる危険を手軽に減らすことができます。この冬は是非、皆様で行ってください。

御嶽山噴火災害におけるDMAT活動

山梨大学医学部附属病院 DMAT

9月27日深夜、長野県と岐阜県にまたがる御嶽山の噴火による災害発生を受け、山梨県からDMAT（災害派遣医療チーム）の出動要請がありました。翌日早朝、本院のスタッフ7名は活動拠点本部となった長野県立木曽病院で約24時間にわたり、患者搬送、患者診療および本部業務の応援を行いました。

DMATは専門的な訓練を受けた医師や看護師などで構成される医療チームです。DMAT派遣を想定している大規模災害は大地震や噴火などの自然災害だけではなく限りません。あらゆる災害に対して派遣要請があれば、現地での救急治療や病院支援を行うことが求められます。

今後、さまざまなタイプの危機に対応できるよう、より一層準備を進めていかなければならないと強く感じました。



左から、雨宮憲彦（検査部技師長）、大島信二（放射線部技師）、工藤本末（ICU看護師）、筒井ひとみ（4W看護師）、柳沢政彦（救急部医師）、塩島正弘（進路支援室長）、小泉敬一（NICU医師）



現地での活動の様子

附属病院消防訓練の実施

管理課

10月22日に甲府南消防署の協力の下、消防訓練を実施しました。当日は雨天のため、救助袋・避難用すべり台による訓練を中止するなど、予定していた訓練内容の変更を余儀なくされましたが、参加した職員は、被害を最小限に留めるための行動を習得するため、緊張感を持って機敏に行動しました。閉会式後には、病棟の2か所の屋内消火栓を使用した放水訓練を実施し、より多数の職員が放水を体験し、防火・防災に対する意識の高揚を図りました。



病棟からの放水訓練



患者搬送

子ども達の音楽会

総務課

院内学級音楽会が10月17日に開催されました。今年、小学生4名と中学生2名の児童・生徒全員で、病気と闘いながらも一生懸命練習した成果を存分に発揮し、息の合った演奏と合唱を聞かせてくれました。後半は、バイオリニストの飯田華代子先生と元気な仲間たち7名の伴奏により、【アナ雪】や花子とアンの主題歌【にじいろ】を、会場の方々と大合唱し、参加者全員が思い出深い楽しいひと時を過ごせました。



藤井副病院長の挨拶



演奏する子どもたち

高校生「一日看護師」体験

看護部

看護に関心のある高校生を対象（今年度は甲府南高等学校2年生16名、山梨英和高等学校2年生4名の計20名）として、6月3日に一日看護師が実施されました。

学生さんからは「看護師さんの患者さんとのコミュニケーションが素晴らしかった」「大変な仕事ですが、とてもやりがいのある仕事だと思った」「看護師になりたい気持ちが強くなった」等の意見が出されました。

本院では、引き続き事業を継続して、高校生に看護についての理解と関心を深めていただき、将来看護を志す動機づけとなるようにしていきたいと思っております。

多くの学生さんが「一日看護師」を体験し、より一層「看護師になりたい！」と感じたようです